



神戸 YMCA
東日本大震災復興支援活動報告書
2013



Contents

- ▽ ごあいさつ
- ▽ 募金活動
- ▽ I'm a Partner Camp
- ▽ リフレッシュファミリープログラム
- ▽ 被災児童支援制度
- ▽ パートナーとともに
- ▽ 復興支援活動 3 か年計画



ごあいさつ

2011年3月11日14時46分に発生した東日本大震災ならびに福島第一原発事故の影響は甚大で、発生から3年がたった今なお、多くの方々が避難生活を強いられています。

特に原発事故による放射線の影響を考え、避難をされている方々の中には自主避難を選択せざるを得なかった状況もあります。いまだに26万人もの方々が避難先で生活をされているということが、この災害による影響の大きさを物語っています。

神戸YMCAの支援活動は、地震発生後1年間の現地での活動支援から、より中長期的な活動内容へと移ってきています。一つは、神戸近郊に避難されている方々への支援活動。屋外でのリフレッシュプログラムや、避難されているお子様がYMCAの活動に参加することを支援する活動を継続して実施しています。もう一つは、福島の小中学生を香川県小豆島でYMCAが運営する余島へ招待してのリフレッシュキャンプです。このキャンプはこれまでに4回実施され、のべ160名の子どもたちが参加しました。子どもたちが自然の中で思い切り楽しむことに加え、ジュニアリーダーとして中学生を招き、将来のふるさと復興のためのリーダーシップを体験的に培っていくことを大切にしています。

震災からもう3年、まだ3年。いまだ復興の道半ばですが、そのただなかにあるお一人おひとりの想いに寄り添いながら、活動を継続していきたいと思います。この冊子を通して、2013年度の神戸YMCAの支援活動を報告申し上げますと共に、今後とも皆様のご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。



神戸YMCA 総主事
水野雄二

全国の避難者等の数（2014年3月27日 復興庁調べ）

- ・全国の避難者等の数は、約26万4千人
- ・全国47都道府県、約1,200の市区町村に所在
- ・兵庫県内の避難者等の数は、916人
- ・兵庫県内の避難者のうち640人は住宅等（公営、応急仮設、民間賃貸等）、276人は親族・知人宅等

募金活動

◆街頭募金活動

東日本大震災発生以降、神戸 YMCA では、震災復興支援リーダー会を中心に募金活動を続けて行ってきました。この募金は、特に避難されているご家族のリフレッシュプログラムやリフレッシュプログラムに活用させていただいています。多くのボランティアが、震災から3年が経過した今なお、月に一度街頭に立ち、声をあげています。

募金をお願いすることだけでなく、震災のことが風化しつつある今、人々の心に「忘れないことの大切さ」を呼びかけています。



2013 年度街頭募金報告

4月 7日	68,215 円
5月 25日	7,900 円
6月 9日	31,274 円
7月 14日	42,665 円
8月 11日	31,415 円
9月 29日	56,062 円
10月 20日	8,225 円
10月 27日	19,176 円
11月 24日	17,846 円
12月 8日	31,013 円
1月 26日	13,029 円
2月 9日	19,925 円
3月 21日	176,063 円
合 計	522,808 円

◆パートナー募金

2012 年春、YMCA 同盟（全国 YMCA 連絡組織）による「三菱商事 YMCA フレンドシップキャンプ」が全国展開されるのを受け、神戸 YMCA 余島センターで「ダイヤモンドキャンプ」を開催しました。フレンドシップキャンプは 2012 年度を持って一旦終了となりましたが、「福島の子どもたちに引き続き支援を！素晴らしい余島の自然を！」との声が広まり「I'm a Partner プロジェクト」が立ち上がりました。

2013 年度は、I'm a Partner Camp 実施のために、述べ 300 名の支援者により 765 万円の募金が寄せられました。おかげさまで夏休み、春休み に計 80 名の子どもたちを招待することができました。

I'm a Partner Camp は 2016 年春まで継続して計画、実施されます。これからもより多くのパートナーとの出逢いを喜びたいと思います。



KOBE YMCA CAMP YOSHIMA

I'm a Partner Camp

東日本大震災復興支援募金をお願い



I'm a Partner Camp

◆福島の子どもたちに希望を

神戸 YMCA では、震災当初より個人や企業をはじめ、多くの方の善意を実現するため支援活動に取り組んで参りました。震災から1年が過ぎた2012年春、YMCA 同盟（全国 YMCA 連絡組織）による「三菱商事 YMCA フレンドシップキャンプ」が全国展開されるのを受け、神戸 YMCA 余島野外活動センターで「ダイヤモンドキャンプ」を開催しました。

三菱商事株式会社の協賛により原則無料招待のダイヤモンドキャンプには、定員を超える申し込みがあり、継続的な開催が望まれました。フレンドシップキャンプが2012年度を持って一旦終了となろうとしたとき「福島の子どもたちに引き続き支援を！素晴らしい余島の自然を！」との声が広まり「I'm a Partner プロジェクト」が立ち上がりました。60年以上の歴史を持つ伝統のキャンプは、長期滞在によって自然や仲間と戯れ、個人の人格の成長を願うものです。キャンプの定員は40名、期間は4泊5日、時期は春休みと夏休みの年2回と決定し、第1回目の2013年夏には、200名を超える賛同者が集まり、400万円を超える募金が集まりました。続く2014年の春には、募金もさることながら25名を超えるボランティアが集まり、キャンプを活気づけました。高校生、大学生、社会人。そして福島からは大学生、中学生のジュニアリーダーが余島に集いました。言葉通り子どもから大人まで、背景が違う誠心「多様」な人々が一つの目的のもとに集う。そんな素晴らしい瞬間が訪れたのです。いつしかパートナーキャンプの目的は、福島の復興、東北の復興のみならず「日本の復興」なのだ、と、キャンプに集った仲間たちは遠い未来を見据えていました。

パートナーキャンプは、2016年春まで、継続的に行い、「未来の指導者を育成する」というボランティア教育も取り入れ、小学生だけでなく中高生の養育も展開していく予定です。「明日の指導者は今日創られる」ある者は参加者として、ある者はボランティアとして、またある者は寄付者として、様々な人が「キャンプ」を通して被災地の復興、日本の復興を願う。

あなたもパートナーになりませんか？是非、お待ちしております。



◆2013年度 I'm a Partner Camp のご報告

I'm a Partner Camp Summer 2013

期 間：2013年7月28日～8月1日

参加者：小学生40名

ボランティア：10名

協 賛：サントリーホールディングス（株）

協 力：

神戸 YMCA 東日本大震災復興支援ボランティアリーダー会、
Ladies & Gentlemen よしましよ、
NPO 法人ルワンダの教育を考える会、
兵庫県ユニセフ協会、生活協同組合コープこうべ、
公益財団法人神戸 YWCA、
公益財団法人日本 YMCA 同盟、
社会福祉法人神戸 YMCA 福祉会、
学校法人神戸 YMCA 学園

I'm a Partner Camp Spring 2014

期 間：2014年3月31日～4月4日

参加者：小学生34名、中学生6名（Jr.リーダーとして）

ボランティア：27名

協 賛：サントリーホールディングス（株）

協 力：

神戸 YMCA 東日本大震災復興支援ボランティアリーダー会、
Ladies & Gentlemen よしましよ、
NPO 法人ルワンダの教育を考える会、
兵庫県ユニセフ協会、生活協同組合コープこうべ、
公益財団法人神戸 YWCA、
公益財団法人日本 YMCA 同盟、
社会福祉法人神戸 YMCA 福祉会、
学校法人神戸 YMCA 学園

リフレッシュファミリープログラム

◆すべての家族に笑顔を

震災から3年が過ぎ、地元に戻ったり、移住を決意されたりと、新たな局面を迎えています。

神戸YMCAでは2013年度も、日帰りのファミリーデイキャンプや、週末を使ったファミリーキャンプを開催しました。四季折々の自然を感じ、解放的な自然の中で活動を続けています。優しい自然に、まさに心が「解放」され、心も身体も気持ちよくなります。

開始から3年、2014年の春には、参加者からボランティアスタッフへと立場を変えて参加されるファミリーも生まれ、新たな未来に向かって進んでいます。

◆2013年度リフレッシュファミリープログラムのご報告

そうだ！春だ！山へ行こう！！

日程：4月21日

活動場所：再度公園

参加者数：3家族9人



そうだ！ホタルを見にいこう！

日程：6月15～16日（1泊2日）

活動場所：伊丹市立野外活動センター

参加者数：7家族24人



そうだ！みんなで植えた枝豆を探しに行こう！

日程：10月19日

活動場所：中農園

参加者数：3家族9人

冬野菜を収穫してあったかいご飯でまったりタイム

日程：2月16日

活動場所：中農園

参加者数：3家族9人



六甲山に春の息吹を見つけに出かけよう！

日程：3月8～9日（1泊2日）

活動場所：六甲山YMCA

参加者数：6家族22人



被災児童支援制度

◆すべての子どもに成長を

神戸 YMCA では、YMCA の日常プログラムやキャンプへの参加の費用を助成することで、東日本大震災によって被災した児童の心身の健康な成長を支援することを目的として、支援制度を実施しています。

被災地と神戸での2重生活などで経済的にも厳しい状況にあるご家族が多くいらっしゃる中、少しでも子どもたちが未来への希望をもって、楽しさを味わうことができればと願っています。

今回は保護者の方のメッセージをご報告いたします。

参加者の声 1

幼児探検クラブに参加させていただき、ありがとうございました。日頃、私一人の育児なので、なかなか甘えさせてやりきることができないのですが、リーダーにスキンシップを求めている姿を見ると、私ができない分、幼児探検クラブで補っている部分もあるなと思います。

知らないお友だちの中に入り、楽しんで帰ってこられることは目には見えませんがすごく成長があるだろうと思っています。

そして2月のキャンプでは雪に触れさせていただき、ありがとうございました。雪との生活は、私が福島に残してきた心残りです。福島に居たころは小さかったので、それを経験させてあげられるとは思いませんでした。本当にありがとうございました。

参加者の声 2

野外活動を通していろいろなこと（仲間意識、集団行動他喜び、我慢）を経験してたくましくなっているなと思いました。震災でおびえ暮らした傷はいつどの場所で起こるかもしれませんが、今の状態ですと、その闇を打ち消し、乗り越えてくれるような気がいたします。誠にありがとうございます。

参加者の声 3

ママと離れての就寝に緊張しており、体調を崩しがちで心配を少ししましたが、帰宅した子は満面の笑顔で、「山壊しが楽しかった！（砂遊びのことだと思います）」と貝殻を飾ったカードをプレゼントしてくれました。後日いただきました写真も砂まみれで夢中になっている最高の写真を撮ってくださり、ありがとうございました。

真っ青な海と空、緑豊かな山々の中で、一泊とは思えないほど大きな成長をしていました。「次はみんなと一緒にもっと海で泳ぎたい」「かっこいい1年生になる」と自立したがる様子に変わりました。経験する機会に背中を見守ることが大切と教えてくださったYMCAさんの存在なしには乗り越えられなかったと思います。震災から中止することなく、3年もの長い間支援してくださり、今までありがとうございました。お世話になったリーダー、スタッフの皆さんはもちろんですが、お会いしていないたくさんの皆さんのお心を賜りました。感謝でいっぱいです。真心を込めてお礼申し上げます。YMCAさんとの出会いは、子の生きる力になってくれると確認しています。本当に本当にありがとうございました。

参加者の声 4

本年も大変お世話になりありがとうございました。毎回の活動後、落ち着いて帰ってくるようになりました。

毎月の活動がリズム付いてきたようで、参加することで救われた場面もたくさんありました。学校に馴染めずいた時も、「キャンプはいつかな」と言っていました。1月は都合で休みましたが、「全部（12ヶ月）参加できないことを悔しがっていました。書ききれませんが、家族皆感謝しています。ありがとうございました。

2013年度の実績

のべ38件のプログラムに参加。

- ◆キャンプ 19件
- ◆日常プログラム 18件
- ◆短期講習会 1件

パートナーとともに ～That they all may be one.～

◆企業・団体の皆さんとともに

私たちは震災当初より、本当に多くの支援者と活動を続けてまいりました。今後もボランティアの皆さまと共に、歩みを進めていきたいと思えます。

まずはじめに、街頭募金をはじめ、本当に多くの、お名前も存じ上げない方々に励ましと募金をいただきました。こちらにお名前は記載できませんが、想いを共にして下さるすべてのパートナーに感謝を込めて。

学校法人啓明学院

ミッションスクールとして目に見えないものに心を注ぐ教育を実践される啓明学院。2013年度は、夏休みと春休みに実施された I'm a Partner Camp において、子どもたちのリーダーとして活動を展開。子どもたちにとってあこがれの存在であり、未来のモデルとなりました。これからも活動をともにしていければと思います。



神戸市社会福祉協議会

東日本大震災の発生以来、ボランティアバス派遣や宮城の中学生招待キャンプなどで協働をしてきました。2013年度は、避難されているご家族対象のリフレッシュプログラムとして、コープこうべとともにエコファームでの収穫体験をともに実施いたしました。



株式会社 光陽社

活動報告書や募金リーフレットの作成にあたり、ご支援をいただいています。多くのパートナーとともに進める様々な活動を、より多くの方々に知っていただくために、今後もよりよいソースを作成していければと思います。



生活協同組合コープこうべ

東日本大震災の発生以来、ボランティアバス派遣や宮城の中学生招待キャンプなどで協働をしてきました。2013年度は、2012年度に引き続き、福島の子供も養育プロジェクトとして兵庫県ユニセフ協会とともに福島の小学生を余島に招いてのキャンプを実施いたしました。



サントリーホールディングス

夏休み、春休みに実施した I'm a Partner Camp において、大きなご支援をいただきました。移動距離が長く、交通費などの費用も大きくなるプログラムですが、計画通りのキャンプを実施することができました。まだまだ必要とされる、福島の子供たちへの支援を今後も継続していければと思います。



Ladies & Gentlemen よしましよ

余島応援団として 2012 年に設立されました。I'm a Partner Camp を実施するにあたり、ファンドレイザーとして延べ 200 名を超える個人・企業に募金を呼びかけてくださいました。また、キャンプにもボランティアとして参加され、記録 Movie 作成など多大なご支援をいただいています。



ルワンダの教育を考える会

福島を拠点に活動し、ルワンダに小学校を建て、子どもたちの教育をより良くしようと活動されているマリー・ルイズさんが代表を務める会です。I'm a Partner Camp では、地域の学校との連携を担ってくださっています。今後ともに歩んでいければと思います。



希望ある未来へ、ともに

復興支援活動 3 か年計画 2013～2015 年度

神戸 YMCA では、震災から 3 年が経過した今なお、必要なことを考え、声を聴き、下記のような活動を継続して実施してまいります。

I'M A PARTNER CAMP (福島の子ども招待キャンプ in 余島)

福島第 1 原発事故による放射能の影響は今後も続くことが予想され、子どもたちが屋外で遊ぶ機会を提供することが求められます。また、小学生参加者が中学生、高校生時代に、ジュニアリーダーとして、リピーター参加することを促すことで、受ける側から与える側へとリーダーシップの養成も進めていきます。

このプログラムに関しては、他団体との協働実施も想定し、計画をしていきます。

ファミリープログラム

2014 年 3 月末時点で兵庫県内に避難している方は 916 名。福島第 1 原発事故による放射線汚染収束の見通しが立たない中で、多くの方がストレスを抱えられています。そのことを踏まえ、今後も年 4 回の日帰り週末ファミリープログラムと年 2 回の週末 1 泊キャンプを計画、実施していきます。

このプログラムに関しては、復興支援リーダー会が計画、実施の中心を担っていきます。

被災児童支援制度

被災地との二重生活を送られ、経済的に余裕のない状況にあるご家族が多くいらっしゃいます。その中で子どもたちが、心身ともに健やかに成長していくことを願い、神戸 YMCA では 2014 年度も被災児童支援制度を継続してまいります。

この制度により、神戸 YMCA のキャンプや水泳などのプログラムへの参加が可能となります。

募金活動

東日本大震災復興支援募金として、クレジットカードや振込などでの募金の他、震災リーダー会が中心となる街頭募金活動も 2015 年度末まで継続実施していきます。

支援すること = 忘れないこと。すべての人々がともに寄り添っていくために街行く人々に呼びかけ続けたいと思います。



「Big Heart」は英語で「思いやり」「やさしさ」を意味します。
YMCAは、人々の心に寄り添う支援を続けます。

YMCA Big Heart Projectは、津波による被災地、福島第一原発事故による放射能の影響を受ける地域、そして避難をしている方々が暮らす全国各地で、全国のYMCA・学生YMCA・ワイズメンズクラブが協力して行う、復興のための活動です。

1. 未来を創る子どもたちを育む

子どもや青年が、自分たちの“いのち”を守り、豊かな自然を愛する心を育みます。

そして彼らが、未来を創る主人公となるよう、リーダーシップの育成に努めます。

2. すべての“いのち”が光り輝くように

あらゆる世代の人々のクオリティ・オブ・ライフの向上を支援します。

また福島第一原発事故による影響から、子どもたちを守る努力を続けます。



神戸 YMCA 東日本大震災復興支援活動報告書 2013 2014 年 5 月発行

神戸 YMCA 〒651-0001 神戸市中央区加納町 2-7-15 TEL : 078-241-7201 E-mail : info@kobeymca.org